

「子育て一番みやづ」クロスオーバープロジェクト

宮津市

総事業費14,800千円
(うち対象事業費
14,800千円)

事業の概要・背景

【概要】

子育て支援センター「にっこりあ」が入る民間商業施設と、関係人口創出拠点「前尾記念クロスワークセンターMIYAZU」の近接を活かし、両施設の機能をうまくクロスさせ、①「子育ての輪づくり」に「子連れキャリアアップ応援」、②「保幼小中高連携」に「高等教育機関等との連携」をプラスするとともに、若者・子育て世代に居住地として選ばれる条件を整えることで、子育てにやさしいまちづくりを「若者が住みたい、選ばれるまちづくり」につなげていく。

【背景】

- 令和2年度京都府子育てにやさしいまちづくりモデル事業により、①子育ての輪づくり(子育て支援センターの機能拡充や幼稚園給食準備など)や②保幼小中高連携(就学前から10年間を見通した「小中一貫教育」を高校までつなげていく)などの子育てにやさしいまちづくりを進めてきた。
- 令和3年度に京都府の地域子育て見える化ツールを利用し、内閣府の少子化モデル事業に取り組む中で、「子育てママの自由時間の確保」や「子育て世帯の就労につながる仕組みづくり」などに係る施策の必要性を確認したところ。

主な事業

◇: 交付対象事業
◆: 関連事業

- ◇「にっこりあ」を核とする子育ての輪づくり事業
- ◇女性のライフデザイン応援事業
- ◇宮津クロスキャンパス事業
- ◇若者が住みたいまちづくり推進事業
- ◆関係人口創出・拡大事業

成果指標

- 子育て支援センター「にっこりあ」での託児サービス利用者数
- 市の子育て環境や支援に対する満足度
- 若年子育て世代(20代・30代)の「転入者数-転出者数」

令和3年(基準値)

0人

就学前69.1%(H30)
小学生61.2%(H30)

△111人

令和7年(目標値)

延べ200人

就学前74.0%(R5)
小学生66.0%(R5)

△60人

モデル性に係る取組(実現性・継続性・創意工夫)

ポイント

- 「子育てにやさしいまち」から、若者・子育て世代に「居住地として選んでもらえるまち」へ向けて、子育て環境から仕事や住居確保までを見据えて施策を展開
- 子育て支援センターと関係人口創出拠点との連携による子育て環境の充実

- 子育て世帯を対象としたアンケートや座談会、ワークショップなどにより、地域の課題把握をした上で、事業を実施するもの。
- 令和4年度にオープンした関係人口創出拠点に、これまで宮津市になかった高等教育機関をはじめとした企業のサテライトオフィスを誘致することができた。
- 国内21箇所ではじめとしたまちづくりを展開する関係人口拠点施設の指定管理者と市内で就学前施設を運営する子育て支援センターの運営委託者などが連携。
- 関係人口創出拠点の指定管理者が高校生をはじめとした関わりの場づくりを展開するとともに、拠点にサテライトオフィスを置く高等教育機関等が子ども達も参加することができる事業を地域において展開していく予定。

